

音楽科授業案

日時 平成25年10月25日(金)
生徒 3年C組 男子19名 女子18名 計37名
授業場 音楽室
授業者 齊藤貴文

1 題材名 「ア・カペラの味わい」(表現領域:歌唱分野)

題材:合唱曲『夢みたものは……』 作詞 立原道造/作曲 木下牧子

[共通事項] 強弱 速度 音色 旋律 テクスチャ フレーズ

2 題材について

(1) 題材観

レコードの登場から130年、世界はデジタル化が進み、音楽は単に録音することだけにとどまらず、録音を通して簡単に編集することが可能となった。さらに、ボーカロイドをはじめとする音声合成技術も進歩し、現代において人気を博していることは周知の通りである。しかし、技術によって造られた音は本当に私たちの琴線に触れることはあるのだろうか。

第2期教育振興基本計画(答申)には社会を生き抜く力の養成が叫ばれ、生涯にわたる学習を行える素地の育成が求められている。音楽科において、このことを達成するためには、本物を通じた感動体験や音楽体験が不可欠だと考える。

しかし、子どもたちを取り巻く環境は精巧に造られた音環境が多く、擬似でありながら本物ではないものに溢れている。造られた音楽は本物の音楽とは異なり味わいが薄く、記憶にも留まりにくい。このような環境に身を任せていると生涯にわたって音楽を愛好する姿には近づいていかないのではないだろうか。

本実践では歌唱の中でも無伴奏での合唱、「ア・カペラ(a cappella)」を取り上げる。無伴奏のなかで音楽を紡ぐことは、そうではない音楽に比べ、音や音楽に対する一層の責任感や集中力、技術を必要とするが、自分の音や音楽と周囲との音や音楽との関係を深く感じ取り、響きあう喜びを体感できるよさがある。

本題材の『夢みたものは……』は、立原道造作詞・木下牧子作曲の無伴奏混声四部合唱曲である。歌詞はわかりやすく日本語の美しさがある。また、「夢・愛・幸福」と心が豊かになるような言葉が散りばめられているだけでなく、音と音が連なるメロディーや重なりから生まれるハーモニーも味わい深く、心地良い和声感を伴っており、音楽のよさを十分に味わえる楽曲である。

今回の実践を通して、ア・カペラの魅力に気づくにとどまらず、音楽を紡ぐことによる達成感と、自分たち自身が音楽と一体となっていることを実感し、音楽のよさや楽しさを味わわせたい。

(2) 生徒観

(3) 指導観

以上のことから、生徒の音楽体験を豊かにし、自ら音や音楽をつくることを意図し「ア・カペラの味わい」という題材を設定した。生徒は表現領域の中でも特に歌唱分野に意欲が高いが、無伴奏の中においては音楽を紡いでいくことの難しさを実感するだろう。しかし、無伴奏のなかで声を合わせ、自分と周囲が奏でる音楽の関わりから生まれる音楽のよさや味わいを実感することを通して、音楽を紡ぐことのやりがいや素晴らしさを感じさせたい。

そこで本題材では、自らの音（声）と他者の音（声）のつながりや重なりの中から生まれる音楽のよさをより強く感じさせるとともに、より一体感のある音楽、より洗練された音楽を自分たち自身がつくるためには、よく聴き、自らの意志でコントロールすることが大切なことを意識させていきたい。そのために、本時では、研究の視点でもある「教科語彙の可視化・記号化」を行うこと、および「モデル演奏との比較聴取」を通して自らの演奏を客観的に聴取し批評していく活動を取り入れることによって、より深い音楽のよさを体感していくことを期待している。

※研究の視点（本実践に焦点化した研究に関わる手だて・・・教科論考参照）

①音楽科における題材構成・授業展開の手だて **モデル演奏との比較聴取を行い自らを批評・・・A**

表現活動においてこれまで一時間において、あるいは題材を通じた成果として、自分たちの演奏を「聴く」活動はあっても、モデル演奏と比較する活動を一単位時間において行うことは無かった。モデルという一つの「音楽美」が絶対的な存在になることを避けること、他との比較ではなく、自分たちの活動の成果を振り返ることに重点を置いていたためである。しかし、ただ演奏するだけでなく、よく演奏するにあたり、モデル演奏を聴いてそのよさについて吟味すること、自己の演奏を振り返り改善することは、自らの演奏技術向上のためにも必要なのではないかと考えた。

本時において、モデル演奏との比較聴取を通して、改善点及び修正点を「聴く」という主体的な行為によって音楽表現のよさのポイントを探り、自己の演奏を振り返り、より主体的に創意工夫して音楽表現を追求するための手だてとした。

②音楽科における生徒の認知に働きかける手だて **音楽の要素の焦点化と教科語彙の記号化・可視化・・・B**

教科主題の「感覚の言語化」を行うために、教科語彙を記号化・可視化し、楽譜に記入させることで、表現する場所や内容を意識させるための手だてとした。

本時では、特に音色と強弱に焦点化し、楽譜への記号の付け方、書き方を示し、楽譜に記述させることで表現活動の意識を深めていく。さらに「聴く」活動を通して、楽譜には書かれていない部分の表現を聴きとり、記号、及び言葉で楽譜に記入させることを手だてとした。

3 題材の目標

楽曲『夢みたものは……』の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、歌うことができる。

4 評価規準

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
ア 歌詞の内容や曲想を味わい、楽曲にふさわしい表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 イ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	ア 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、歌詞の内容や曲想を感じ取り、言葉の特性を生かし、声部の役割や音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。	ア 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌うことができる。

5 題材指導計画（4時間計画）



	学 習 事 項	主な学習活動・手だて	評 価			
			関	創	技	
関連	「曲想を味わって」混声3部合唱曲『花は咲く』（岩井俊二作詞・菅野よう子作曲） 「混声合唱の喜び」混声3部合唱曲『Heart&Heart』（桜田直子作詞・作曲）					
1 2	○『夢みたものは……』と 出会い ・歌詞の内容と音取り ・音色感の統一	○『夢みたものは……』の歌詞の意味と作曲者の意図を知り、言葉の美しさや発音するポイントを意識しながら創意工夫して歌うに意欲的に取り組む。 ○『夢みたものは……』各声部内で音色の統一・豊かな響きを意識して演奏表現をする。	音楽の要素の焦点化と教科語彙の記号化・可視化 B	ア		
3	○『夢みたものは……』の曲想の変化を感じ取ろう。 ・音色感の統一 ・旋律の変化とフレーズ感 ア：音色、強弱イ：フレーズ	○旋律の変化から生まれる抑揚・強弱の変化や、フレーズ感を意識した演奏表現をする。		ア	ア	
4 本時	○『夢みたものは……』のよさを深めよう。 ア：音色、強弱 【手だて】 模範演奏と自分たちの演奏を比較聴取し、吟味して音楽表現を創意工夫する。 A	○『夢みたものは……』の演奏における語感の変化や強弱の効果から生じるニュアンスの変化を感じ取る学習に主体的に取り組む、創意工夫して演奏表現をする。		イ	ア	
5	○曲にふさわしい表現で『夢みたものは……』を合唱しよう。 ア：速度、テクスチャ	○『夢みたものは……』の言葉や響きの美しさ、旋律の動きからくる強弱などを意識し総合的な演奏表現をする。		イ		ア
関連	「歌詞の内容を味わって」卒業式の歌 「君を忘れない」「仰げば尊し」					

6 本時案

(1) 本時の目標

モデル演奏と自分たちの演奏の比較聴取を通して、ニュアンスの変化を探る活動に意欲的に取り組み、創意工夫して音楽表現を深めることができる。

(2) 本時の展開 (4/5) (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手だて	【評価方法】・備考
<p>1. 歌い方に気をつけて歌うことができる。</p> <p>【演奏のポイント】 ・姿勢 ・声の重なり ・声の響き方 ・音の質 ・音程 など</p>	<p>□「夢みたものは……」を歌いましょう。</p>	<p>・クリップボード ・楽譜 【発表】</p>
<p>ニュアンスの変化を逃さず感じ取り、工夫して歌おう！ 聴きとり批評する手だて</p>		
<p>2. ニュアンスの変化を感じ、交流することを通して、ニュアンスの変化への見通しを持つことができる。</p> <p>・音程・音のバランス・音の長さ・いきおい ・のぼしている音の動き・言葉が丁寧・バラバラしている・</p>	<p>○「日傘～」自分たちとモデル演奏を比べて大きな違いをどこに感じますか。</p> <p>△変化を表現するためにはどうしたらいい △発語や語尾はどうなっているだろう</p> <p>□「大きな～踊っている」までの部分を自分たちの演奏とモデル演奏を聴き比べて改善・修正点を楽譜に書き込みましょう。</p>	<p>・音程だけに偏らないこと</p> <p>発音：○ 息継ぎ：V 音の伸び：→…黒 強弱：<> その他：特徴的な部分は破線や記号、言葉などで記入</p>
	<p>△抑揚の微妙な変化を表してみよう △微妙な強弱や発音の変化はないだろうか △歌詞の語感のニュアンスが特に必要なところは</p>	<p>音楽の要素の焦点化と教科語彙の記号化・可視化・・・手だ</p>
<p>3. Grに分かれ、交流し、表現の改善点を確認することができる。</p>	<p>□Grごとに内容を交流し、演奏のポイントを拡大譜にまとめましょう。</p>	<p>【WS・発表】</p>
<p>4. 表現の改善するポイントを意識して合唱することができる。</p>	 <p>□ポイントを意識して合唱練習をしましょう。</p>	<p>Gr ・各パート2つに分ける ・Grごとに検討・吟味 ・確実なもの和不確実なものにまとめ、吟味する …聴きとり批評する手だて ・パートごとに集まりGrごとに考えた演奏のポイントを拡大譜に書き込む。</p>
<p>5. 全体合唱を行い、再度比較聴取を通し良くなった点及び、課題を書き込むことができる。</p> <p>・強弱の幅が少ない ・強弱の変化がわかるようになった ・はっきり聞こえない部分がある ・音の長さがよくなった ・もっと強く言ったほうがいいと思う</p>	<p>○もう一度モデル演奏と自分たちの演奏を聴き比べて、良くなった点及び課題はどこだろう。…聴きとり批評する手だて</p> <p>△歌詞の語感をもっと出した方がいい部分はないだろうか。 △音のニュアンスが出し切れていない場所はないだろうか。</p>	<p>【WS・発表】</p>
<p>6. 本時のまとめの合唱を行い、本時の録音を聴きながら WS に本時の感想を書くことができる。</p>	<p>□本時の成果を聴きながら WS に感想を書きましょう。</p>	<p>【WS】</p>

